

24日（火）午前6時代前半 NHK ラジオ第1

「マイあさ！／三宅民夫のマイあさ！」 NHK ヨーロッパ総局長 高尾 潤

発言内容

（キャスター）

ワールドリポートきょうは、EUからの離脱をめぐる混乱が続くイギリスで行われた日本とイギリスの有識者会合について、欧州総局長の高尾潤（たかお じゅん）記者に聞きます。高尾さんも、この有識者会合に出席されたのですね。どのような会合なのですか？

（高尾）

「日英21世紀委員会」というこの会合は、1980年代初め、当時の中曽根総理大臣とサッチャー首相の提唱で始まり、今年で36回目になります。

日英両国の国会議員をはじめ、政財官学の各界から毎年、有識者が集まって、二国間関係や国際情勢など幅広い分野について意見交換し、その結果は政策提言として、双方の首相に提出されてきました。ことしはイギリスのケント大学で行われましたが、丸二日間、学生寮に全員が寝泊まりして議論が続けられました。私は初めての参加でしたが、熱心な議論に圧倒される思いでした。

（キャスター）

イギリスのEU・ヨーロッパ連合からの離脱に向けた期限が1ヶ月あまり後に迫っていますが、この問題についてはどのような議論が行われたのですか？

（高尾）

和気藹々の雰囲気であった会合でしたが、本格的な議論が始まると、日本側からEU離脱に向けたイギリスの迷走ぶりに強い懸念と失望が示されました。ちょうどイギリス議会では、合意なき離脱も辞さないジョンソン首相との間で激しい攻防が続いていましたが、まさにその渦中の議員らに対する日本側からの厳しい直言に、会場の雰囲気は一変しました。

こうした日本側のいらだちの背景には、3年前にイギリスが国民投票でEUからの離脱を決めてから、この委員会では、その影響を最小限に食い止めるため、日系企業などの懸念に耳を傾け、予測可能な離脱を実現するようにと、繰り返し提言してきました。

ところが、新たな交渉期限まで1ヶ月あまりと迫った今も、「合意なき離脱」を避ける目処すら立っていない。イギリスは我々の提言を何も聞いていないではないかという強い落胆があるのです。

(キャスター)

今回の会合の結果は、両国の首脳に対する提言としてまとめられると言うことですが、
ことしはどのような提言が行われたのか？

(高尾)

EUからの離脱については、これまでの提言を確認すると言う極めて短いものになりました。ただ1点、「日英関係は、EU離脱後のイギリスとEUとの関係に大きく左右される」という点が加えられました。イギリス側が期待する日本との二国間の自由貿易協定は、重要だが、まずはEUとの貿易交渉をしっかりとまとめて欲しい。そうでないと、日本側は先に進めないという切実な思いが込められています。

会議の終了後にイギリスのメンバーが私に言った言葉が忘れられません。「この提言を君たちは安倍総理に渡すわけだが、我々は誰に渡すのか。それすら予測できないんだよな」というのです。就任したばかりのジョンソン首相の去就が焦点になる中でのイギリス式のブラックジョーク。まさにイギリスの混乱ぶりを象徴する発言で、その状況は今も続いています。